

水辺のごみ見つけ！2025（全国水辺のごみ調査）の結果

= 概要版 =

水辺にはたくさんのごみが散乱しています。海洋プラスチック汚染対策のためにも、水辺に散乱するごみの状況を全国規模で把握することは大切であり、2016年から始まった本調査は10年目の節目を迎えました。2025年は、幅広い世代や定期的にごみを拾う個人の方等、参加の層が拡がり、調査件数が大きく増加しました。さらに、個人、グループや企業、学校等にこの活動が拡がり調査地点が増えることを期待しています。

ごみを調査することにより、水辺のごみへ目を向け、何でごみがあるのかを考え、周囲の環境への関心を高めました。

（調査期間：2025年4～11月）

◆調査結果



○ 飲料ペットボトル: **32,225 本**
○ レジ袋 : **5,689 枚**
○ カップ型飲料容器: **2,365 個**

[参考]2024年調査件数は、件数 820 件、飲料ペットボトル 38,323 本、レジ袋 85,266 枚、カップ型飲料容器 2,745 個

◆調査状況 ○参加人数 のべ **12,295 人**

○調査件数 **986 件** *1

○調査範囲計（水辺の長さ） **365.5km** *2

（調査地別内訳）	川	海	湖沼	合計
飲料ペットボトル(本)	30,542	1354	329	32,225
レジ袋(枚)	5,040	556	93	5,689
カップ型飲料容器(個)	2,184	54	127	2,365
調査件数(件) *1	929	44	13	986
調査範囲(Km)*2	342.4	8.6	14.5	365.5
参加人数(人)	11,380	224	691	12,295

●その他、まちで 32 件、

合計：ペットボトル 943/レジ袋 254/カップ型飲料容器 42

●その他、河川管理者から重さや容積などの参考情報 10 件

*1) 同じ地点でも調査時期が異なる場合は複数件としてカウントしています。

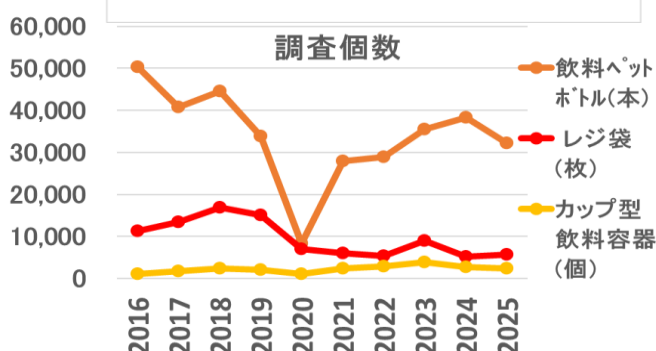
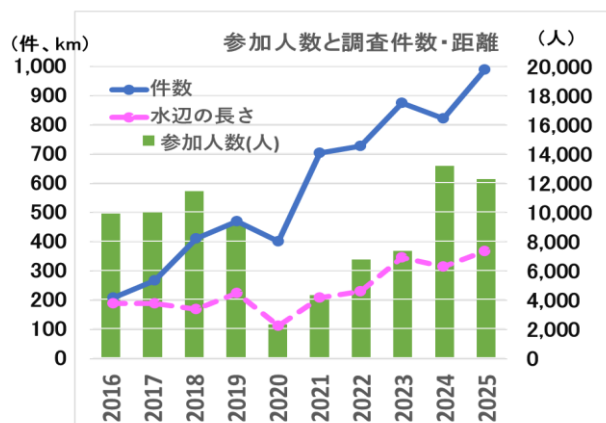
*2) 川の兩岸を調査した場合、片側の水辺距離の2倍で計算すると調査した水辺の長さは 439.5km になりました。

◆個人の参加者増加

2020年のコロナ禍以降は、毎年、調査件数、調査距離、参加人数ともに増加傾向となっていますが、2025年は参加人数が若干減少しました。人数は減少しても件数が増加しているのは、個人による参加が増えたためと考えられます。2025年は、新たに「ごみゼロ」アプリからの報告も受け付けられるようにしています。



その年によって調査された個数の増減はあります。レジ袋は2020年の全国的な有料化以降に減少傾向がありましたが、下げ止まりとなっています。



◆河川管理者の調査協力

国土交通省の河川管理者の調査協力は4年目となります。市民と一緒に実施する河川清掃が雨天中止が多かったことも影響し、報告件数は減少しましたが、河川管理者による調査など、28都道府県の51水系、計84地点（合計8,817人、約109.8km）の報告がありました。



十勝川(北海道)



雄物川(秋田県)



江戸川(千葉県)



天神川(鳥取県)

本調査は、公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けて実施しました。